

令和6年度水俣病犠牲者慰霊式「水俣市長式辞」

水俣病で亡くなられたすべての御霊（みたま）が安らかならんことをお祈りし、謹んで哀悼のまことを捧げます。

本日、水俣病犠牲者慰霊式を挙げるにあたり、御遺族をはじめ、水俣病患者の皆様、被害者団体の皆様、伊藤環境大臣、木村熊本県知事、国会議員並びに県議会議員の皆様、近隣自治体の皆様、また多くの市民の方々の御臨席を賜り、祈りを捧げていただきますことに、心から厚く御礼を申し上げます。

本年は、水俣病の公式確認から、68年目の年にあたります。

水俣病により被害にあわれた方々と御遺族の苦しみ、悲しみはこれ程の長いときを経ても変わることはありません。

これから先も、多くの方々とともに、その思いにどう寄り添っていくか。その取組みとして、慰霊式実行委員会の委員の方から奉納プレートに公募したイラストを掲載してはどうかという御提案がありました。実行委員会での話し合いを経て、美しい水俣の海の象徴である「うたせ舟」、そして「祈り」をテーマに、次の世代を担う子供たちや一般の方からイラストを募集し、来年度の水俣病犠牲者慰霊式から奉納できるよう準備を進めることとしております。この募集を通して、より多くの方々とともに、水俣の過去、そして未来へ思いを馳せる機会となることを切に望みます。

本市は、水俣病を経験したまちとして、市民の皆様をはじめ、議会、行政が一体となって、国や県の御支援をいただきながら、環境に配慮した様々な取組みを実施してきました。国の「環境モデル都市」や環境モデル都市の理念を継承し、発展させた「SDGs未来都市」に選定されるなど、その姿勢が高く評価されるようになりました。

しかしながら、全国で人口減少が進む中、本市もまた急激な人口減少、高齢化に直面しております。水俣病により被害にあわれた方々と御遺族の苦しみ、悲しみに寄り添い、その教訓を発信し続けるためにも、持続可能な水俣市を作り上げることが私たちの大きな使命です。そのためにも「みんなが幸せを感じ 笑顔あふれる元気なまち 水俣」の実現に向けさまざまな施策を力強く推進してまいります。

最後に、改めて、水俣病で犠牲になられたすべての生命に心から祈りを捧げ、式辞といたします。

令和6年5月1日

水俣市長 高岡 利治